

医療現場：看護部

テーマ：車椅子用点滴スタンド連結器具

■ 背景

- ・ 看護師が点滴を受けている患者を車椅子で移送する際には、看護師が片手で点滴スタンドを把持した状態で、もしくは患者自身が点滴スタンドを把持した状態で移送しなければならず、大変危険を伴っている。
- ・ 近年では、車椅子と点滴スタンドとを連結する技術が考案されているが、連結の状態が十分でない場合には、移送中の右左折時や段差乗り越え時に連結器具から点滴スタンドが外れ転倒したり、点滴スタンドの位置によっては看護師が歩行する際に邪魔になる、などいくつかの問題がある。



■ 製品のイメージ

- ・ 点滴スタンドの車椅子への連結・脱着が容易にできる。
- ・ 点滴スタンドの車椅子への連結位置は、車椅子の前方、後方のいずれでも良い。
- ・ 患者が車椅子へ移乗する際、邪魔にならない。
- ・ 移送の際、点滴スタンドが看護師の歩行を邪魔しない。
- ・ 様々な大きさの車椅子と点滴スタンドに接続できる。
- ・ 写真のようなシリンジポンプや輸液ポンプを取り付けた、重量のある点滴スタンドにも使用できる。
- ・ 連結器具により車椅子と点滴スタンドとが確実に連結され、移送中（特に段差等を越える際）でも点滴スタンドが外れない（転倒しない）。



(出典: illustAC)

■ 市場性

- ・ 介助式車椅子の国内市場は72億円と見積もられている（シルバー産業新聞：2023年9月10日）。
- ・ 車椅子は重度の患者が多い急性期病院などでの需要が高い。
- ・ 車椅子と点滴スタンドの連結が容易であれば、点滴スタンド連結器具は医療機関のみならず、老人ホームや各種介護施設、リハビリ施設など、さらなるマーケットの広がりが期待できる。

■ 看護部のホームページ

<http://sumsnurse.es.shiga-med.ac.jp/>